

公立大学協会

一般社団法人公立大学協会ニュースレター Vol.8/No.2

2013年10月12日発行（通刊第30号）

【発行責任者】木苗 直秀（一般社団法人公立大学協会会長／静岡県立大学長）

【編集責任者】中田 晃（一般社団法人公立大学協会事務局長）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 郵政福祉虎ノ門第2ビル2F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimmu@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/

公立大学は83大学となりました。

3つの基本目標で公立大学の新たな未来を拓く

新会長メッセージ 公立大学協会会長 木苗 直秀（静岡県立大学長）

本年5月に公立大学協会会長を拝命し、会員校の皆様とともに歩み始めて4ヶ月が経過しました。日本は2011年の3.11東日本大震災と、それに続く原発事故から未だ厳しい復興の途上にありますが、今年の夏以降、我が国に2つの大きな朗報がもたらされました。1つ目は、富士山が芸術の源泉、信仰の対象として世界文化遺産に登録されたこと、2つ目は、IOC委員会により2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決定したことです。これらも追い風として、公立大学は様々な場面でその持てる力を発揮し、我が国の復興・再興に向かって、歩んでいかねばならないと感じています。

さて、公立大学にとって課題の多くは地域に根ざしたものであり、国内外で活躍できる人材育成、産学連携、社会人教育など、多岐に渡っております。本協会では2013年度に、次の3つの基本目標を掲げ、常設の3委員会を中心に、関連課題に積極的に取り組んでいます。

- 1 地域社会と公立大学の創造的な連携をつくる。
- 2 公立大学の機能充実のための検討を行う。
- 3 公立大学の学生とともに教育改革を推進する。

まず今年度、文部科学省のいわゆる「大学COC事業」が開始されました。公立大学も、これまで進めて来た地域での教育・研究実績を生かしながら、全学が一体となった新たな

な戦略づくりを必要としており、設置団体や地域社会との間では改めて創造的な関係を構築することが求められます。

次に、奥野武俊前会長の下で取り組まれた、公立大学における質保証の課題については、新たに「公立大学政策・評価研究センター」を発足することで継承していきます。センター長には浅田尚紀前副会長を迎え、会員校からは45名の連携研究員の名簿をいただいております。公立大学の教育・研究の質保証については、授業評価、法人評価、認証評価を通して、合理的に行う必要があります。それ故、社会的に共通の足場を持つ公立大学にとって相互の情報交換の場が必要且つ不可欠となりますので、同センターのつくるコミュニティーは公立大学の在り方の検討や質保証を担保することに極めて意義のあるものと考えています。

さらに、秋の学長会議では昨年度に引き続き、全国の公立大学から集った学生と共に、震災復興支援や、地域における学習活動の成果について議論する予定です。大学は学生、教員、事務職員が三位一体となって教育・研究活動をする場であり、特に学生が将来、ローカルに、グローバルに活動することを考える時、学生との対話が極めて重要なものとなっているからです。

これら3つの基本目標を軸に会員校の様々な交流や切磋琢磨する場をつくることで、公立大学が地域活性



木苗直秀

（きなえ・なおひで）

静岡薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了、静岡県立大学学生部長、副学長等を経て、2009年より静岡県立大学長。

専門領域は食品衛生学、食品安全学。

化の中核的拠点としてさらなる機能を充実させ、新たな未来を拓くことができるよう、2年間の大役に取り組んでいく所存です。本協会内外の皆様には、多くの機会にご指導、ご協力をいただくこととなりますが、よろしくお願い申し上げます。

平成25・26年度一般社団法人公立大学協会役員等名簿（平成25年5月23日現在）

役職名	所属・職名	氏名
会長	静岡県立大学長	木苗 直秀
副会長	岩手県立大学長	中村 慶久
〃	兵庫県立大学長	清原 正義
〃	北九州市立大学長	近藤 倫明
地区選出理事		
（北海道・東北）	釧路公立大学長	高野 敏行
（関東・甲信越）	山梨県立大学長	伊藤 洋
（東海・北陸）	静岡文化芸術大学長	熊倉 功夫
（近畿）	奈良県立大学長	伊藤 忠通
（中国・四国）	島根県立大学長	本田 雄一
（九州・沖縄）	長崎県立大学長	太田 博道
指名理事	札幌医科大学長	島本 和明
〃	首都大学東京学長	原島 文雄
〃	高知県立大学長	南 裕子
監事	名古屋市立大学長	戸丸 創
〃	福岡県立大学長	柴田 洋三郎
顧問	横浜市立大学長	布施 勉
〃	都留文科大学長	加藤 祐三
〃	大阪府立大学長	奥野 武俊
〃	山口県立大学長	江里 健輔
相談役	元愛知県立大学長	森 正夫
〃	前秋田県立大学長	小林 俊一
〃	前北九州市立大学長	矢田 俊文
〃	兵庫県立大学教授	浅田 尚紀
事務局長	公立大学協会	中田 晃

平成 25 年度総会にて「公立大学政策・評価研究センター」の新たな設置を決定

公立大学の評価のあり方等について昨年度集中的に検討を行った「公立大学の質保証に関する特別委員会」を発展改組して、公立大学政策・評価研究センターを立ち上げました。

本センターは、初代センター長に浅田尚紀教授（兵庫県立大学／本協会相談役）、副センター長に佐々木民夫特任教授（岩手県立大学）、さらに公立大学の評価に精通した学長・元学長を専門委員とし、当面の目標として、①「大学評価ワークショップ」（以下ワークショップ）の試行的な実施により大学ピアレビューのモデルを作成する、②公立大学法人評価に関する情報を収集し法人評価のあり方に関して参考となる資料を作成する、の2点を掲げ、3年程度をかけて活動の方向性を探ることとしています。

ワークショップは、評価機関等により重要性が盛んに強調されている「内部質保証」の重要な要素である「外部評価」として、自己点検評価の充実と内部質保証システム構築の一助となることを目指しています。ワークショップの実施を希望する大学の要請に応じて、本センターにて評価項目等の内容を調整し、対話を中心とした双方向的な評価の実施を通し

て「大学ピアレビュー（評価報告書）」を作成する予定です。この大学ピアレビューは、自己点検評価や業務実績報告等において外部評価のエビデンスとして活用可能な資料となることを想定しています。

また、本センターでは、大学評価のあり方について情報を共有し公立大学の質保証コミュニティを形成する協力者として、各会員校から連携研究員を募り、内部質保証を担う人材の育成支援を目指しています。

去る7月30日（火）の第1回高等教育改革フォーラムでは、「大学の内部質保証」に関する大学基準協会工藤潤事務局長の講演とパネルディスカッションに続いて、矢田俊文相談役による「大学評価システムの成果と課題」の講演の後、本センターの目的や活動と併せて連携研究員の役割と期待について説明し、センター活動への参加協力を呼びかけました。9月30日現在、推薦いただいております45名の連携研究員の方には、ワークショップや、高等教育改



7月29日、里見朋香大学振興課長をお迎えし、公立大学政策・評価研究センター開所式を行いました。センターを紹介するスライドショーの上映後、今後のセンターの取組みについて参加者で大いに議論しました。



センターが取り組む大学評価ワークショップに関する研究会の様子。（長崎県立大学 8月29日）

革フォーラム、質保証に関する勉強会等に参加いただき、公立大学の質保証の姿について理解を深めながら、今後のあり方についてともに議論を重ねていきたいと考えています。

一般社団法人 公立大学協会 定時総会を開催 5月23日（木） 東京・学士会館

■ 全体会議 ※ 役職等は全て当時

奥野武俊会長の開会挨拶の後、来賓の板東久美子文部科学省高等教育局長、多田健一郎総務省財務調査課長、井塚嗣夫島根県東京事務所長（全国公立大学設置団体協議会会長・代理）にご挨拶をいただきました。

続いて、池田貴城文部科学省大学振興課長より、公立大学を巡る文教施策についての基調講演をいただきました。

■ 分科会

午後は4つの分科会が開催され、様々なゲストスピーカー（◇印）とそれぞれのテーマで議論を深めました。

【第1分科会 出席者44名】

公立大学のCOC機能強化への取組み
◇文部科学省 池田貴城 大学振興課長

◇文部科学省 花田大作 公立大学係長

【第2分科会 出席者24名】

学生と共に行う大学の教育改革

◇筑波大学 金子元久 教授

【第3分科会 出席者19名】

認証評価の今後の展望について

◇文部科学省 田中聡明 高等教育政策室長

◇大学基準協会 鈴木典比古 専務理事

◇大学評価・学位授与機構 岡本和夫 理事

【第4分科会 出席者83名】

公立大学を取り巻く制度と大学改革

◇総務省 村田崇 財務調査課課長補佐

◇文部科学省 田頭吉一 大学振興課課長補佐

■ 定時総会（議案審議）

以下の議案について審議を行い、すべて承認されました。

○議案第1号「新会員入会について」（秋田公立美術大学）

○議案第2号「平成24年度事業報告

及び決算について」

○議案第3号「平成25年度役員の選任について」

○議案第4号「平成25年度事業計画及び収支予算について」

総会終了後、平成25年度第2回理事会が開催され、会長及び副会長が選定されました。（1面参照）

新任学長等懇談会

総会翌日の5月24日（金）、新任学長等懇談会を20名（うち新任学長11名）の参加のもと学士会館で開催しました。

公立大学を取り巻く近年の状況をテーマに文部科学省より行政説明をいただき、各副会長と新任学長が情報交換を行いました。

公立大学職員を対象としたさまざまな企画を実施しました

設置団体からの派遣職員、プロパー職員など、多様な職種構成職員の育成を目的として夏から秋にかけて3つのプログラムを実施しました。職員セミナーでは114名（ファシリテーター含む）の参加をいただき、その方々に感想を寄稿いただきました。

公立大学職員セミナー

7月17日～19日 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

首都大学東京 宮林 常崇（ファシリテーター）

公立大学の事務組織は多様な雇用形態・バックボーンを持った職員で構成されていることが多く、個々のニーズに合った研修を一律に実施することが困難です。そのため、与えられた研修を無意識に受けるのではなく、自分で自ら必要なSDをプロデュースすることがこれからの公立大学職員には必要だと考えています。この「セルフのSD」を効果的なものにするためには、長く続けるためのインセンティブと、独り善がりなSDにならないための仕組みが必要です。その効果的な方法の一つとして、大学間の連携が挙げられます。今回のセミナーでは、セルフのSDに必要なネットワークの基礎を構築しました。この基礎を今後どのように発展させるかについては、私を含め参加者一人ひとりが、セミナーで得たネットワークをどのように仕事へ・職場へ還元するかにかかっています。

本年4月から公立大学協会事務局にご指導頂きながら「公立大学職員ネットワーク」がスタートしました。公立大学協会Webサイトからアクセスできますので、セルフSDのインセンティブの一つとして、ぜひ活用頂ければ幸いです。

岩手県立大学 西島 雅花（一般コース参加）

大学職員5年目にして初めての参加でしたが、どのプログラムも「もっと聞きたい」「もっと話したい」と思う内容でした。業務内容と直結する話もできまし、公立大学とは「大学の将来をどうするか」等の広い視野で物事を考えることもできました。

2日目の本学事務局長の講演「公立大学の設置と運営、人材育成と後輩職員へのメッセージ」の後、他の参加者から多くの声をかけていただき、本学学生の取り組みや、震災時の対応について興味を持ってくださっていることを実感しました。本学の優れているところも、逆に遅れているところも、このセミナーによって客観的に知ることができました。

3日間の中で特に印象に残った話は「公立大学職員にはインセンティブがない（キャリアパスが見えづらい）」で、いい意味でグサリときました。今後様々な大学やひとから刺激を受け、今回のセミナーで学んだこと、得たネットワークを周囲に伝えていきたいと思っています。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

公立大学法人会計セミナー

8月7日～9日 メルパルク東京

8年目にあたる今年度は、プレセミナー（初任者向け）45大学106名、3日間にわたる本開催セミナー51大学133名の参加がありました。

プレセミナーでは名古屋市立大学で会計実務を担当する内山達雄経理係長に、また会計セミナーでは公認会計士の先生方を講師に迎え、それぞれ説明をいただきました。

石川県立看護大学 山崎 正志（初任者コース参加）

私は設立自治体の派遣職員ですが、大学に赴任して文書作成する機会がかなり増え、文書能力の重要性を認識するようになりました。大学を離れてからも使う能力であるとも思い今回の研修に臨み、また今回の研修をより活かすため、設立自治体である石川県が主催する同様の研修にも参加しました。

プロパー職員と派遣職員とで交流に関する意識の違いがあるように感じました。派遣職員の場合、大学を離れた後は他の公立大学職員との人脈は活かしにくいと思いますが、経験の浅い派遣職員だからこそ他大学に質問できる関係があると助かることもあるかもしれないので、交流の方法についても考えたいと思います。

本学は1法人2大学体制ですが、1大学複数キャンパスの大学での課題と1法人2大学との間で共通する点及び異なる点を発見できました。教務や学生支援関係では他大学と共通する課題が多いように思います。私は主に会計を担当していますが、来年、本学からは教務学生課の職員に参加してもらい、感想を聞きたいと思います。

福岡女子大学 安永 智美（初任者コース参加）

私は法人からの指名により参加しました。他の公立大学職員の方と出会えること、公立大学職員としてのセミナーを受講できることに嬉しく思いました。一方、初任者コースの事前課題は準備が大変で、正直面倒だと思っていました。しかしながら、実際



初任者コースのワークショップで発表する参加者

に参加してみて、本当に良かったです。

ワークショップは事前課題が出ていたこともあり、真剣に取り組むことができました。文章を書くことは自分自身を見つめ直すことにもつながり、苦しいと思うこともありましたが、今回学んだことを生かして、技術を向上させていきたいと思っています。

そして何より、他の公立大学職員の方と出会えたこと、交流できたことが一番印象的でした。普段、感じている悩みや不安など共感できる部分が多く、初対面でも話が尽きませんでした。さらに、お話から日々の頑張りや仕事に対する前向きな姿勢を感じることができ、私も負けないように頑張らなければと思いました。今回のセミナーでのつながりを大切に、自分で考え、行動できる職員を目指し、努力していきたいです。

平成25年度公立大学職員セミナーの主なプログラム

オリエンテーション 公立大学協会 中田晃 事務局長

講演①「高等教育政策と公立大学に期待される役割」 文部科学省大学振興課 田頭吉一 課長補佐

講演②「公立大学の設置と運営、人材育成と後輩職員へのメッセージ」 岩手県立大学 瀬川純 事務局長

講演③「大学のマネジメントと職員への期待」 近藤倫明 第3委員会委員長（北九州市立大学長）

○初任者コース

特別講義「大学職員のキャリア開発を考える」 大阪府立大学 理事長室 伊戸睦 主査

ワークショップ「大学職員の継続的な学びの方法を考える」

○一般コース

講演「地域での大学職員交流について」 首都大学東京 宮林常崇 基礎教育担当係長

分野別事例交流会

グループディスカッション「今、公立大学職員としてなすべきこと、できること」

地区別ディスカッション

公立大学職員勉強会

協会1F 貸会議室にて月1回開催

文部科学省及び本協会への研修生をコアメンバーとし、出張等で上京された公立大学職員に参加いただき、勉強会を開催しています。これまでの経過は次のとおりです。



	日程	講師	テーマ
第1回	5月16日(木)	田中 聡明 高等教育政策室長	大学教育の質転換等について
第2回	6月21日(金)	池田 貴城 大学振興課長	公立大学を取り巻く大学改革の動向
第3回	7月22日(月)	山崎 淳一郎 弘前大学研究推進部長	大学における危機管理の実践
第4回	9月20日(金)	佐々木 雄太 大学教育部会長 (元公立大学協会会長)	中央教育審議会大学教育部会の審議の動向について

新学長の紹介(12 大学)

平成 25 年 4 月 1 日以降に就任された学長と新たに入会された大学の学長の
お名前、専門等をご紹介します(敬称略)。なおカッコ内は現任期。



国際教養大学

鈴木 典比古 すずきの のりひこ
国際経営論
(H25.6.1 ~ H29.5.31)



秋田公立美術大学

樋田 豊次郎 ひだとよじろう
近代日本美術史
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



富山県立大学

石塚 勝 いしづか まさる
応用流体工学、流体機械、伝熱工学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



石川県立大学

熊谷 英彦 くまがい ひでひこ
発酵学、応用微生物学、酵素工学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



情報科学芸術大学院大学

吉田 茂樹 よしだ しげき
コンピュータネットワーク
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



愛知県立芸術大学

松村 公嗣 まつむら こうじ
日本画
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



神戸市看護大学

鈴木 志津枝 すずき しづえ
がん看護学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



岡山県立大学

辻 英明 つじ ひであき
食品学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



県立広島大学

中村 健一 なかむら けんいち
環境生化学、微生物運動論
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



広島市立大学

青木 信之 あおきの のぶゆき
英語教育学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



下関市立大学

吉津 直樹 よしづ なおき
経済地理学
(H25.4.1 ~ H29.3.31)



宮崎公立大学

林 弘子 はやし ひろこ
労働法
(H25.4.1 ~ H29.3.31)

新会員大学紹介

秋田公立美術大学

学 長: 樋田 豊次郎
所在地: 秋田市新屋大川町 12 番 3 号
学 部: 美術学部
学生数: 116、教員数: 41、職員数: 22
(平成 25 年 4 月 1 日現在)



秋田公立美術大学は、「新しい芸術領域を創造し、挑戦する大学」「秋田の伝統・文化をいかし発展させる大学」「秋田から世界へ発信するグローバル人材を育成する大学」「まちづくりに貢献し、地域社会とともに歩む大学」という 4 つの基本理念のもと、新しい芸術的価値を生み出し発信する人材や、グローバルに活躍できる力を持った人材、アート・デザインをいかした地域の活性化に寄与できる人材を育成します。

公立大学協会の主な活動の記録 (H25.5.1 ~ H25.9.30) 役職名組織名は全て日付当時

5 月

- 9 ~ 10 ★ UMAP 日本国際理事委員会〔アルカディア市ヶ谷〕
- 11 ★ 事務局新事務所へ移転
- 16 ★ 第 1 回職員勉強会〔協会 1F 貸会議室〕
- 17 ★ 秋田公立美術大学開学記念式典出席〔秋田ビューホテル〕
- 23 ★ 定時総会〔学生会館〕
- 24 ★ 新任学長等懇談会〔学生会館〕★第 3 回理事会〔協会 1F 貸会議室〕★第 1 回公立大学政策・評価研究センター(以下、センター)運営委員会〔協会〕★第 7 回高大接続特別部会(近藤副会長出席)〔三田共用会議所〕
- 28 ★ 第 1 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 29 ★ 大学機関別認証評価等に関する説明会出席(大学評価・学位授与機構)〔学術総合センター〕
- 30 ★ 大学入学者選抜方法の改善に関する協議(清原副会長、小田切山梨県立大学理事出席)〔文科省〕

6 月

- 1 ★ 宮崎公立大学開学 20 周年記念式典(木苗会長講演)〔宮崎公立大学〕
- 6 ★ 第 1 回公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会〔協会〕
- 6 ~ 7 ★ 公立大学協会図書館協議会〔高知県立大学〕
- 7 ★ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会出席〔国立オリンピック記念青少年総合センター〕
- 10 ★ 大学改革フォーラム実行委員会出席〔東京ガーデンパレス〕
- 18 ★ 第 2 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 19 ★ 第 3 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 21 ★ 公立大学実態調査表の作成説明会及び公立大学協会担当者研修会〔アルカディア市ヶ谷〕★第 2

回職員勉強会〔協会 1F 貸会議室〕

- 25 ★ 全国公立大学設置団体協議会総会出席〔松江東急イン〕

7 月

- 1 ★ 第 2 回公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会〔協会〕
- 3 ★ 第 4 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 11 ★ 第 2 回センター運営委員会★第 5 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 17 ~ 19 ★ 公立大学職員セミナー〔国立オリンピック記念青少年総合センター〕
- 19 ★ 医科歯科部会出席〔ナビオス横浜〕
- 22 ★ 第 3 回職員勉強会〔協会 1F 貸会議室〕
- 24 ★ 第 6 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 25 ★ 第 2 回就職問題懇談会(清原副会長出席)〔文科省〕
- 26 ★ 看護・保健医療部会出席〔高知県立大学〕
- 29 ★ 第 3 回運営会議★第 4 回理事会★第 1 回委員会〔協会〕★公立大学政策・評価研究センター開所式(霞ヶ関ナレッジスクエア)★第 2 回国公立大学を通じた大学教育改革の支援に関する調査検討会議(奥野顧問出席)〔文科省〕
- 30 ★ 第 1 回高等教育改革フォーラム(メルパルク東京)

8 月

- 6 ★ 第 7 回センタースタッフ会議〔協会〕
- 7 ~ 9 ★ 公立大学法人会計セミナー〔メルパルク東京〕
- 9 ★ 大学改革フォーラム(パネリスト: 奥野顧問)〔明治大学〕
- 19 ★ 第 3 回センター運営委員会〔協会〕
- 29 ★ 大学評価ワークショップに関する研究会〔長崎県立大学〕
- 30 ★ 九州・沖縄地区協議会〔九十九島観光ホテル〕

総務省及び文部科学省へ要望書を提出

○ 8 月 6 日(火)、公立大学協会は、全国公立大学設置団体協議会とともに、総務省及び文部科学省を訪問し、公立大学に関する地方交付税措置の見直しや、授業料減免措置の拡充等に関する両大臣への要望書を提出。
○ 8 月 19 日(月)、「地域の大学の存在価値を高める「地(知)の拠点事業の拡充」「大学改革を加速させる新たな制度による支援体制の構築」等、平成 26 年度高等教育関係予算に関する文部科学大臣への要望書を提出。
○ 9 月 26 日(木)、改正労働契約法に関し、文部科学大臣あてに要望書を提出。
(各内容は Web に掲載)

9 月

- 2 ★ 第 3 回就職問題懇談会(清原副会長出席)〔文科省〕
- 3 ★ 関東・甲信越地区協議会〔山梨県立大学〕
- 6 ★ 中国・四国地区協議会〔島根県立大学〕
- 11 ★ 第 4 回センター運営委員会〔協会〕
- 12 ★ 近畿地区協議会〔奈良県立大学〕
- 18 ★ UMAP 日本国内委員会〔アルカディア市ヶ谷〕
- 19 ★ 外国語・国際関係部会〔静岡県立大学〕
- 20 ★ 第 4 回職員勉強会〔協会 1F 貸会議室〕
- 24 ★ 東海・北陸地区協議会〔静岡文化芸術大学〕
- 25 ★ 大学ポートレート(仮称)に関する国公立大学向け説明会出席〔一橋講堂〕

事務局より

新たに移転した事務局では、「センター」関係の打合せは専用の小部屋(ラボ)で行うようにしています。また、同じ建物の 1F に貸し会議室(30 名程度)があり、理事会、職員勉強会等で活用しています。